

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	9	事業名	適応指導教室運営事業					
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成						
	基本施策	7 不登校児童生徒対策の充実						
	施策の展開	3 不登校児童生徒への支援の充実						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する						
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ						
	事業名	適応指導教室運営事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H12	～	摘要			
事業目的								
不登校児童生徒個々の実態等に応じた生徒指導、学習指導、適応指導を行い、自立を促しながら学校への復帰を図る。								
事業効果								
不登校児童生徒にとって、学校と違う場所で指導員や友達と関わりながら、学習やいろいろな体験活動を行うことは、学校復帰に向けた大きな支援となっている。学校の行事等をきっかけに学校に部分登校したり、復帰したりした児童生徒もおり、効果は大きいものがある。								
現状と課題								
例年10名前後の通所児童生徒がおり、個々の実情に応じた指導が成されている。「石巻市子どものサポートハウス」が施設内に設置されたことから、不登校児童生徒への相談対応の総合センター的な充実を図る必要がある。また、引きこもり気味の児童生徒のために、訪問指導による支援の実施も検討する必要がある。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
通所児童生徒との教育相談、及び学校、保護者との連携				実施				→
児童生徒の実態等に応じた学習指導				実施				→
人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実				実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数	件	100	100	100	100	100	
成果指標	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）	%	80	80	80	80	80	

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況	<p>1 「石巻市こどものサポートハウス」を中心に、児童生徒はもちろん、保護者、学校とも相談しながら連携を図った。</p> <p>2 「けやき教室」では個々の児童生徒の実態に応じて時間割を作り、個別に学習指導を行いながら、外部講師を招いての一斉指導の時間も設定した。</p> <p>3 「体験活動」を年間指導計画に位置付け、他者とのかかわりを重視する活動を行った。</p>
---------------	--

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	件	100	100	100	100	100	C
		実績	件	89	66				
		達成率	%	89	66				
	成果指標	指標名	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	80	80	80	80	80	B
		実績	%	75	78.9				
達成率		%	93.8	98.6					

【評価基準】 達成率が100%以上 …A 達成率が80%以上100%未満 …B 達成率が60%以上80%未満 …C 達成率が40%以上60%未満 …D 達成率が40%未満 …E 事業を実施できなかった …F	総合評価 B
--	---------------

取組の成果及び評価の理由	相談が必要と思われる児童生徒や保護者に対して、「相談」に至らないケースもあり、評価は「C」とした。適応指導教室に通う全員の再登校に至らず、評価は「B」で、総合評価も「B」とした。
--------------	---

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 わずかながら再登校率が伸びており、事業の取組が良かったと評価したいと思います。なかでも、ひきこもりがちな不登校の児童生徒にとって体験活動を年間指導計画に位置付けたことは大変良いことだと思います。今後もサポートハウスをはじめ、保護者・学校等と連携しながら事業に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>【鍵 頼信氏】 人間関係づくりが上手ではない、集団に適応できない子どもだけではなく、家庭に問題があり昼夜逆転している子どもにとって本当に大切な場所であり、大事な事業でありますので、利用促進の仕方や子どもの活動のさせ方など工夫しながら、充実した事業にしてほしいと思います。</p> <p>【木村美保子氏】 子どもの居場所ということで、とても良い事業だと思います。引き続き頑張ってくださいと思います。</p>
------------	---

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	相談件数や「けやき教室」通所児童生徒の増加、さらには、適応指導教室にも通えない児童生徒に対する訪問指導など、支援の形が多様になってきており、それに伴う人員不足が課題である。
-------------	--

今後の対応方針	<p>「石巻市子どものサポートハウス」が適応指導教室「けやき教室」内にあるため、児童生徒の実態に応じて、通所型の支援、訪問型の支援、どちらも臨機応変に対応できる利点がある。平成31年4月からサポートハウスのスタッフ1名を通所支援のため配置しているが、今後けやき教室の指導員を1名増員したいと考えている。</p>					
令和元年度の見込み	新規・ <u>継続</u> ・ <u>拡充</u> ・縮小) ・ 休止 ・ 廃止 ・ 期間満了による終了					
事業費（決算額）	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額（千円）	5,202	5,255			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	10	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	10 高校教育の充実					
	施策の展開	1 魅力あるカリキュラムの提供、教育内容の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	魅力ある高等学校教育を推進する					
	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H25	～	摘要		
事業目的							
桜坂高校の教育の三本柱である「品格教育」、「キャリア教育」、「学力保証」の推進及び充実に図り、生徒の進路希望や興味・関心、社会の動向に対応しながら、人間的な成長と品格の涵養に努め、石巻市の未来を担う人材の育成及び輩出を目指す。							
事業効果							
三本柱の推進及び充実により、桜坂高校の魅力がさらに向上することで、募集定員の確保につながるとともに、石巻市の未来を担う人材の育成が図られる。							
現状と課題							
平成30年度入学生は前年度と比較し9人減となり、学励探求コース・キャリア探求コースともに定員割れが続いている状況である。魅力ある学校づくり事業をさらに推進し、定員の確保に向けて、より一層、教育活動を充実させ「学校の魅力の向上」を図るとともに、「学校の魅力発信」に努め、桜坂高校の魅力を石巻市内外に強力にPRしていく必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
桜坂高校の三本柱の推進に係る各種講座等の実施			実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	事業の実施状況（各種講座予定回数に対する実施回数の割合）	%	100	100	100	100	100
成果指標	市立高校生が本市に住み続けたいと思う割合	%	70	70	70	70	70

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況	<p>生徒一人ひとりの将来の夢実現のために各方面から講師を招いて講座等を実施した。生徒を対象とした各種講座等については以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品格教育に関わる講座・・・3回 ・学力保証に係る講座・・・5回 ・キャリア教育に係る講座・・・30回 <p>特に、地域に貢献できる人材の育成を図るための事業とし、総合的な学習の時間（「桜坂タイム」）を活用し、全学年で実施した。</p>
---------------	---

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	事業の実施状況（各種講座予定回数に対する実施回数の割合）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100				
		達成率	%	100	100				
	成果指標	指標名	市立高校生が本市に住み続けたいと思う割合						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	70	70	70	70	70	B
		実績	%	51.6	61.8				
達成率		%	73.7	88.3					

【評価基準】 達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価
達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	
達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F	

取組の成果及び評価の理由	事業の実施率は100%であった。また、3年生を対象とした5月のアンケート調査において、石巻市への居住志向については61.8%となり平成29年度より上昇した。
--------------	--

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 生徒一人ひとりの将来の夢実現のために様々な展開をしています。また、前年度と比較して本市に住み続けたいと思う生徒の割合が上昇しており、評価できると思います。 課題である定員の確保に向けて三つのことを考えました。一つ目は、まず積極的に教育の三本柱を発信すること。二つ目は中学生の学校訪問やオープンキャンパス等を活用し、その魅力を実感させること。三つ目は総合的な学習の時間に、地域貢献する活動などを取り入れること。御検討をお願いします。</p> <p>【鍵 頼信氏】 進学率や就職率がとても良く、学校への満足度も高いように思います。私なりにどうしたら定員を確保できるのか考えてみました。一つ目は、教育の三本柱、品格・キャリア・学力というものをもっと前面に、「うちの学校ではこんなことをやっています。」というのを出してよいと思います。二つ目は、生徒たちにもっと市の活動に参加させてみるとか、ラジオやテレビをつかって全国に対し、活動を伝えてもよいと思います。三つ目として、学励探求コース、キャリア探求コースというネーミングが、果たして市民のニーズと合っているのかということです。学励探求やキャリア探求は具体的に何をするのかを市民に対してわかりやすくPRしてほしいということです。最後に、私が4年前の未来づくり事業の推進委員長のときに、生徒さんは素晴らしいコーディネートをしていたのですが、自信なさそうにやっていた。自分の学校に満足している生徒が80パーセントいた割には、自分たちからアピールすることが少し弱いと感じましたので、もっと自信をもたせるいろいろな活動をさせると良いと思います。</p>
------------	--

	<p>【木村美保子氏】 例えば、川開き祭りや地元の祭りでダンスを披露するとか、地元に着した活動の中で、「桜坂はこんなことをやっているんだぞ」という勢い、そういったことをアピールできると良いと思います。県内公立高校の中で唯一の女子高ならではの勢いや面白さを前面にアピールしていただきたいと思っています。積極的に表に出て、地域に着した活動に取り組めば、まだまだ定員は増えると思います。</p>					
課題・改善 (ACTION)						
事業を進める上での課題	石巻地区の中学校卒業生数は平成31年から令和10年までの間に、300人程度減少する見込みとなっている。定員を確保するには、より一層、「学校の魅力発信」に努め、市内はもとより市外からの入学生を増やす必要がある。					
今後の対応方針	定員確保の点では、教育活動を充実させ「学校の魅力の向上」を図るとともに、従来の中学校・塾訪問、オープンキャンパス、学校公開、ポスターの発行等に加え、市民に桜坂高等学校の教育活動を紹介する場を設置する等、新たな「学校の魅力発信」に努めていく。					
令和元年度の見込み	新規・ <u>継続</u> ・ <u>拡充</u> ・縮小・休止・廃止・期間満了による終了					
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額 (千円)	2,476	3,812			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	1 1	事業名	学校防災推進事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	2 安全に安心して学ぶための環境づくり				
	基本施策	4 防災教育の充実	2 児童生徒の安全の確保				
	施策の展開	1 防災教育の充実	1 危機管理体制の整備				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
復興計画	施策大綱	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる					
	節	未来の人を育てる					
	細節	子どものケアの実施					
	事業名	防災教育充実事業					
担当課	学校安全推進課	事業期間	H 2 3	～	摘要		
事業目的							
児童生徒の発達段階に応じた系統的防災教育を実践するとともに、学校防災の充実のために、学校と地域や関係機関等との連携強化を図る。							
事業効果							
児童生徒の実態及び学校の周辺環境に応じた防災教育が実践され、児童生徒の災害対応力が向上するとともに、学校と地域や関係機関等との連携による災害発生時の的確な緊急対応が可能となる。							
現状と課題							
東日本大震災では、大規模災害時における「公助」の限界が明らかとなり、「自助」、「共助」の力を向上させる防災教育への関心が高まっている。 今後、震災を体験していない児童生徒及び教職員が増えていく。街の復興も進み、目に見える震災の被害が少なくなっていく中で、いかに児童生徒らに震災の事実、教訓を語り継いでいくかが課題である。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
防災教育、避難訓練の実施			実施				→
防災教育副読本の作成と活用			実施				→
学校防災推進会議による地域と連携した学校防災の推進			実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	防災教育・避難訓練の実施 (副読本を用いた授業実施)	校	53	52	52	52	52
成果指標	防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用した防災教育の実施率	%	100	100	100	100	100

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況	<p>各学校の避難訓練では、学校の立地する災害を想定した避難訓練が実施されている。また、緊急地震速報受信機設置校では、同受信機を活用した実践的な避難訓練が実施されている。</p> <p>防災教育副読本については、全ての学校で有効に活用されており、児童生徒一人一人に「自分の命は自分で守る」ことの意識を高めることができた。また、各学校の活用状況を踏まえ、防災教育副読本の改訂に向けた準備・検討を行った。</p>
---------------	--

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	防災教育・避難訓練の実施（副読本を用いた授業実施）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	53	52	52	52	52	A
		実績	校	53	52				
		達成率	%	100	100				
	指標名	防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用した防災教育の実施率							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100				
		達成率	%	100	100				

【評価基準】 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F	総合評価
	A

取組の成果及び評価の理由	<p>各学校では、立地条件や過去の災害状況等を踏まえた避難訓練が実施され、児童生徒らは円滑かつ迅速な避難行動をとることができている。また、緊急地震速報受信機を活用した訓練では、児童生徒はより臨場感を持って訓練に取り組むことができている。</p> <p>防災教育副読本の活用については、発達段階に応じた系統的な指導により、児童生徒に必要な知識や能力を身に付けさせることができた。</p>
--------------	--

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 災害を想定した避難訓練など実践的な訓練が実施されています。その結果、達成率が前年度に引き続き100パーセントになっておりまして、高く評価できると思います。今後、体験をしていない児童生徒に震災の事実、教訓をどのように語り継いでいくかが課題となっていますが、早い段階で地域や学校と連携しながら示していく必要があると思います。</p> <p>【鍵 頼信氏】 各学校では防災教育の重要性を十分認識していると思いますので、更に確実な実践として、同じ避難訓練でも、マニュアルどおりではなく、実際に大雨が降っているときに地震が起きないとも限りませんし、その最中に山火事が起きないとも限りません。いろいろなケースを想定した避難訓練が必要だと思いますので、そのようなイレギュラーな避難訓練も行うよう、各学校に対して指導してほしいと思います。</p> <p>また、防災に対する意識が高く、高いレベルで避難訓練を行ったり、防災組織をつくっている地域もありますが、以前、学校から管轄する総合支所に対し、地域防災の推進をお願いしたところ、「学校でやってください。何かあれば手伝います。」と言われました。このように地域防災を学校に任せている地域も未だにありますので、総合支所としての防災意識も高めてほしいと思います。</p>
------------	---

	<p>【木村美保子氏】 子どもの命に向き合われていますので、今後もしっかりと防災事業については推進していただきたいと思います。 また、どうしても地震を想定していますが、別の災害もいろいろと想定した中で今後も訓練を続けてほしいと思います。</p>					
課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	<p>児童生徒が「自分の命は自分で守る」ことができるよう、主体的に行動する力を育成するためには、今後も継続して防災教育副読本を活用した防災教育の推進と避難訓練の実施が不可欠である。</p>					
今後の対応方針	<p>東日本大震災から8年が経過し、防災教育副読本には実情に合わない内容項目があることから、令和元年度において、実態に即した内容項目で再編・改訂作業を行い、令和2年度に改訂版を配布する。</p>					
令和元年度の見込み	<p>新規・<u>継続</u>(<u>拡充</u>)・縮小)・休止・廃止・期間満了による終了</p>					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	4,238	4,684			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	1 2	事業名	学校給食センター運営事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1	社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	3	健やかな体の育成				
	施策の展開	4	食育の充実				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	学校給食センター運営事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校管理課	事業期間	H17	～	摘要		
事業目的							
市内小・中学校52校児童生徒及び2幼稚園児に1日当たり約11,500食の「安全で安心」な学校給食が提供できるよう施設環境を整える。							
事業効果							
身体の発育期にある児童生徒に、栄養バランスの取れた給食を提供することで健康増進と体位の向上が図られる。							
現状と課題							
東学校給食センターの開設（平成28年8月）に伴い、牡鹿学校給食センター及び石巻西学校給食センターを廃止（平成28年7月末）している。石巻西学校給食センターについては、施設を解体し、土地を借用先である東松島市へ返還（平成30年3月）した。その他既存の3施設は、老朽化に伴い施設設備等に係る経費が増大しており計画的な更新が必要となっている。また、「石巻市行財政運営プラン」の中で、給食調理業務の民間委託が取組項目となっていることから、施設の統廃合と併せ検討し、運営経費の削減を図ることが必要となっている。							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
施設維持管理業務		実施				→	
施設設備の修繕、調理器具類の更新		実施				→	
調理従事者等の健康管理		実施				→	
食品検査及び調理従事者の検便検査の実施		実施				→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	調理場内ATP検査等の実施回数、衛生講習の実施回数（5回×4施設／年間）	回	20	20	20	20	20
成果指標	ATP検査判定の基準値内率	%	100	100	100	100	100
備 考	ATP検査とは、汚れの指標となるATP（アデノシン三リン酸）の量を測定し、厨房内の洗浄度を数値化する検査のこと。						

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況		各施設において、調理場内のATP検査2回、目視検査2回、細菌検査1回を実施し、また、合同にて学校給食調理従事者等研修会として外部講師を招き、衛生管理の基本等について衛生講習2回を実施した。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	調理場内ATP検査等の実施回数、衛生講習の実施回数 (5回×4施設/年間)						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	回	20	20	20	20	20	A
		実績	回	20	28				
		達成率	%	100	140				
	成果指標	指標名	ATP検査判定の基準値内率						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	C
		実績	%	75	77.5				
		達成率	%	75	77.5				
【評価基準】 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		ATP検査等を実施し汚れ具合を数値化すること、また、調理員の衛生講習を2回に増やし実施し、基本を再認識することで、現状の作業の反省及び改善を行い、より衛生を保つことができた。 一方、2回実施したATP検査の判定結果において改善の必要性があったため、このことから、総合評価を「B」とした。							
学識経験者からの意見		【有見正敏氏】 子どもたちにとって学校給食は、楽しみの一つでもあります。今後も安全で安心な学校給食に向けて、万全を期して衛生管理に当たってほしいと思います。 【鍵 頼信氏】 事業目的は、安心安全な給食が当たり前であるということで達成できるのではないかと思います。安心安全を含め、さらに工夫して充実させ、夢のあるメニューもお願いしたいと思います。 【木村美保子氏】 今後、給食調理業務の民間委託も取組項目となっているので、その前にある程度の現状と現場の声を拾ってほしいと思います。最終的には、楽しみな給食になるよう今後も努力していただきたいと思います。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		調理器具等の洗浄・殺菌については専用の設備機器があるが、蛇口やドアノブ等の洗浄・殺菌については調理員の手作業で行っているため、殺菌ができているかどうかは目視では判断ができない。このため、より効果を上げるためには、細菌検査を活用し実施することが必要である。							

今後の対応方針	<p>目には見えない細菌数や種類を数値化する検査や、衛生講習を継続して実施することにより、職員の意識の向上を図り、より衛生的な状態を保ち、安全で安心な学校給食の提供につなげる。</p>					
令和元年度の見込み	<p>新規・継続(拡充)・縮小) ・ 休止 ・ 廃止 ・ 期間満了による終了</p>					
事業費（決算額）	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額（千円）	424,779	333,156			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	13	事業名	放課後の子どもの居場所づくり事業					
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	3 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり					
	基本施策	3 健やかな体の育成	2 地域との連携・協働の強化					
	施策の展開	2 学校や地域における子どもの運動やスポーツに親しむ機会の充実	1 地域との連携による子どもたちの安全確保・健全育成					
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	地域全体で子どもたちを育成する						
	施策の展開	地域・家庭の教育力を強化する						
	事業名	放課後子ども教室推進事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	生涯学習課	事業期間	H25	～	摘要			
事業目的								
市内小学校区（公民館区）において、公共施設を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものである。								
事業効果								
地域の中で、子どもたちに様々な体験・交流・学習活動の機会を提供することにより、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育む。 地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実。								
現状と課題								
平成25年度より和瀨小学校地区を対象に開設。平成28年度は上釜地区を加えた2地区で、平成29年度はさらに石巻小学校区を加え3地区で実施する。自主学習・昔の遊び・体験活動を行っている。地域住民が、コーディネーター、学習アドバイザー、安全監理員と役割を分担しながら、教室の運営にあたっている。放課後の児童の安心・安全な居場所づくりに貢献するだけでなく、異年齢者との交流機会の創出や地域住民同士の交流、地域人材の活用によって、地域活性化の高まりが成果として表れている。今後もモデル地区での実践を踏まえ、継続した活動ができるようにしていきたい。								
事務事業の概要			年度別事業計画					
			H29	H30	R元	R2	R3	
放課後子ども教室の設置			実施					→
指 標 名			単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	放課後子ども教室開設数		箇所	3	3	3	3	3
成果指標	放課後子ども教室に係った地域住民数		人	48	48	48	48	48

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況		<p>「和 کوچک子クラブ」、「上釜子ども教室」、「放課後子どもBremen」の3箇所を実施した。 3箇所で開催62回実施し、延べ572名のスタッフが参加し、1,672名の児童が参加した。</p>							
<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	放課後子ども教室開設数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	箇所	3	3	3	3	3	A
		実績	箇所	3	3				
		達成率	%	100	100				
	成果指標	指標名	放課後子ども教室に係わった地域住民数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	人	48	48	48	48	48	A
		実績	人	50	54				
		達成率	%	104.2	112.5				
<p>【評価基準】 達成率が100%以上 …A 達成率が80%以上100%未満 …B</p> <p>達成率が60%以上80%未満 …C 達成率が40%以上60%未満 …D</p> <p>達成率が40%未満 …E 事業を実施できなかった …F</p>							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		<p>地域の人々の参画を得て、放課後や休日を活用した学習活動や体験活動、異年齢交流などを行いながら、子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保することができた。 また、地域住民にも浸透してきているため、活動指標の目標値よりボランティアの登録数が増加した。</p>							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】 昨年度に引き続き、多くの地域住民の参画を得て、子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保できていることは、高く評価できると思います。今後も、成果を地域住民に発信するとともに、併せて活動場所を増やすことや人材確保に努めてほしいと思います。</p> <p>【鍵 頼信氏】 地域で子育てを推進する素晴らしい事業ですので、もっと広がると良いと思います。更に推進するためにはボランティアの方々の方々の質の向上やサポートに取り組み、地域に任せつつも、それをチェックする部分があつて良いと思います。</p> <p>【木村美保子氏】 生涯学習に関わる子どもを特に対象とした様々な団体等があると思いますので、例えば、NPO等の人たちにも声を掛け、パートナーとなってくれる団体やリーダーなどがいるのであれば、是非、今後もう少し地区を広げていただけたら良いと思います。</p>							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		<p>子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保したり、安定した活動を実施したりするために、地域住民の人材確保が必要不可欠である。</p>							

今後の対応方針	地域に根ざした活動を目指し、地域住民の意向を確認したり情報交換を行ったりしながら連携を図って活動を充実させる。					
令和元年度の見込み	新規・ 継続 (拡充)・縮小) ・ 休止 ・ 廃止 ・ 期間満了による終了					
事業費（決算額）	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額（千円）	1,145	1,134			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	14	事業名	協働教育推進事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	3 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり					
	基本施策	2 地域との連携・協働の強化					
	施策の展開	2 地域との連携・協働による学習活動の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	地域全体で子どもたちを育成する					
	施策の展開	地域・家庭の教育力を強化する					
	事業名	協働教育推進事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	生涯学習課	事業期間	H18	～	摘要		
事業目的							
「子どもたちの抱えるいじめ、不登校、学力や体力の低下等の諸問題の解決」並びに「生きる力をはぐくむ教育活動の充実・改善」という課題解決に向けて、「学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働し、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体ではぐくむ協働教育」を推進する。							
事業効果							
各学校において、学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働する多様な「協働教育」のプログラムが創出され、様々な実践が展開できる。このことにより、児童生徒の学習活動の質を高め、学ぶ意欲をはじめとする確かな学力の向上、多様な人々との関わりや体験を通じた豊かな心の育成が期待できる。また、協働教育への協力を呼びかける中で、新たな人材との出会いが生まれ、活動の充実につながる事が期待できる。							
現状と課題							
平成30年度は14校での実施であり、新たな取組だけでなく、各学校がこれまで取り組んできた活動を、保護者や地域の方々と協働して行うことができた。また、協働教育支援会議における実施校の報告や意見交換は、それぞれの小・中学校区の協働教育推進事業を改善・充実させるうえで有効な情報になった。令和元年度は新たに5小・中学校区が加わり、計15小・中学校区で実施している。今後さらに協働教育を充実させていくためには、今後も各中学校区の取組を発信し、協働教育推進事業以外の各学校も協働教育に取り組む際の有益な情報になるようにしていく。また、地域の人材の発掘を含む、事業の一層の充実拡大が課題である。							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
協働教育推進委託事業		実施				→	
協働教育支援会議の開催（年2回） 協働教育フォーラムの開催		実施				→	
石巻市協働教育コーディネーター委嘱事業		実施				→	
学校支援地域コーディネーター委嘱事業		実施				→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	協働教育推進委託事業による協働教育組織の再編・設置数	学校数	9	14	15	15	15
成果指標	学校と地域による協働教育を実施している学校数	学校数	53	52	52	52	52

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況	<p>1 協働教育推進事業の活動実績については、市内14小・中学校区で実施し、各学区事業回数合計795回、各学区ボランティア延人数7,018名だった。(前年度より5小・中学校区増に伴い、ボランティア人数も増加した。)</p> <p>2 石巻地区協働教育研修会兼石巻地区社会教育委員研修会開催状況については、教員・地域コーディネーター・NPO関係者等の参加により、参加者は79名となった。(H30年度から対象が石巻市から東部教育事務所管内に変更)</p> <p>3 コーディネーターの委嘱状況については、協働教育コーディネーターは市内全33小学校の教員を各校に1名ずつ、計33名を委嘱した。また、学校支援地域コーディネーターは、市内各小・中学校区に地域の方15名を委嘱した。</p>
---------------	--

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	協働教育推進委託事業による協働教育組織の再編・設置数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	学校数	9	14	15	15	15	A
		実績	学校数	9	14				
		達成率	%	100	100				
	成果指標	指標名	学校と地域による協働教育を実施している学校数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	学校数	53	52	52	52	52	A
		実績	学校数	53	52				
		達成率	%	100	100				

【評価基準】 達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価
達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	
達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F	

取組の成果及び評価の理由	<p>今年度も子ども達を地域全体で育み、地域防災や郷土芸能、地場産業などの理解を深めることができた。また、今年度も地元企業やNPO団体等の協力を得ながら事業を推進したことにより、児童生徒にとって有意義な活動を実施することができた。その他に、各学校の事業回数と延べ参加ボランティア人数の増加から協働教育が推進されていることが考察できる。地域コーディネーターについては15名に委嘱を行った。(前年度9名)</p>
--------------	--

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 学校経営をしたものとして、地域住民の支援なくしては、学校経営は難しいということを実感しています。協働教育は、学校の諸課題を解決したり、地域の教育力を強化したりする上で、欠かせない教育の取組であると思います。その中心的な役割を担うコーディネーターの役割は大きいと感じています。協働教育コーディネーターの整備が進んできていることですので、今後、事業数、それからボランティア人数の増加などの充実に向けてほしいと思います。</p> <p>【鍵 頼信氏】 社会教育という視点から、学校、家庭、地域が連携して子どもたちを育てていくということは大変素晴らしく、非常に評価できると思います。しかし、地域によっては震災の影響で、人の数とか、サポートに差があると思います。どの地域も同じように充実した活動にするためには、今後も地区と人のサポートをお願いしたいと思います。</p> <p>【木村美保子氏】 地域との連携が大切ですので、開かれた学校、魅力ある学校づくりをしていくために、必要な事業だと思っています。引き続き全市的に取り組んでいただきたいと思っています。</p>
------------	---

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	<p>今後も協働教育を充実させていくために、各学校区の取組を発信し、協働教育推進事業以外の各学校も協働教育に取り組む際の有益な情報になるようにしていく。また、地域の人材発掘と活動推進の核となる人材育成が課題である。</p>					
今後の対応方針	<p>各学校の協働教育の取組について冊子等にして各学校に配付する。また、各学校の地域連携担当者及び地域コーディネーターと連携し、人材発掘も含めた各種情報の共有を図りながら事業を進めていく。</p>					
令和元年度の見込み	<p>新規・<u>継続</u>・<u>拡充</u>・縮小) ・ 休止 ・ 廃止 ・ 期間満了による終了</p>					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	1,717	2,417			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	15	事業名	スポーツ振興事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成		4 豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進			
	基本施策	3 健やかな体の育成		2 生涯にわたるスポーツ活動の推進			
	施策の展開	2 学校や地域における子どもの運動やスポーツに親しむ機会の充実		1 スポーツ活動の機会の充実	3 スポーツに対する意識啓発		
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	心ゆたかな誇れるまち					
	基本施策	市民が個性を活かして輝ける機会をつくる					
	施策の展開	市民の主体的なスポーツ活動を支援する					
	事業名	スポーツ振興事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	体育振興課	事業期間	H17	～	摘要		
事業目的							
市民の健康づくりと交流促進、成人のスポーツ実施率の向上やスポーツ少年団加入率の向上等をめざす。							
事業効果							
平成29年度に策定した石巻市スポーツ推進計画の到達目標である「成人の週1回以上のスポーツ実施率を宮城県水準へ押し上げる」及び「子どもたちの体力と運動能力を全国水準へ押し上げる」ことが期待できる。							
現状と課題							
各種スポーツ事業について、公園等への仮設住宅の立地により、運動を行える場所が限られており、環境整備が急務となっているが、NPO法人石巻市体育協会をはじめとした関係団体と連携した企画・運営や実技指導などの結果、参加人数は増加傾向にある。今後も、NPO法人石巻市体育協会との協働体制を継続し、多くの市民が参加しやすい環境の整備や参加意識の向上に努めたい。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
いしのまき復興マラソン			実施				>
いしのまき市民スポーツフェスタ			実施				>
いしのまきキッズ交流大会 兼 石巻市スポーツ少年団交流大会			実施				>
スポーツ教室（キッズバラエティ・体育館スポーツ教室）			実施				>
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	事業開催数	回	6	6	6	6	6
成果指標	参加者数	人	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況		NPO法人石巻市体育協会を始めとした関係団体との連携により、「第4回いしのまき復興マラソン」、「いしのまき市民スポーツフェスタ」、「いしのまきキッズ交流大会兼石巻市スポーツ少年団交流大会」、「キッズバラエティスポーツ教室」、「体育館スポーツ教室(卓球及びバドミントン)」を実施した。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	事業開催数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	回	6	6	6	6	6	A
		実績	回	6	6				
		達成率	%	100	100				
	達成率	%	100	100					
	成果指標	指標名	参加者数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	人	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	A
		実績	人	4,729	5,936				
達成率		%	118.2	148.4					
達成率	%	118.2	148.4						
【評価基準】 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		いしのまき復興マラソンは、スポーツ振興事業の目玉と位置付け、震災時に寄せられた多くのご支援への感謝と復興状況を全国に伝えるべく実施している。平成30年度においては、地場産品のわかめうどん無料配布コーナーや復興パネル展、更には北限のオリーブ冠の贈呈などで県外参加者へPRを行った。今後も内容の充実化を図るため、実行委員会との協議を密にしながら、一層の工夫が必要である。 今後とも、NPO法人石巻市体育協会との協働体制を継続しつつ、行政主導から民間主導への移行を図るとともに、「成人のスポーツ実施率の向上」や「子どもたちの体力と運動能力の向上」を目標に掲げ、本市の復興状況と照らし合わせながら、多くの市民が参加しやすい環境の整備や参加意識の向上に努めたい。達成率の面から評価は「A」である。							
学識経験者からの意見		【有見正敏氏】 震災で運動が行える場所が限られている中、関係団体との連携あるいは石巻復興マラソンなどの6つの事業によって市民の参加が増加していることは、高く評価できると思います。今後も多くの市民が参加しやすい環境の整備、それから参加意識を高めるとともに事業内容を工夫しながら実施していただきたいと思います。 【鍵 頼信氏】 各関係団体と協力しながらスタッフが一生懸命取り組んでいることが本当によく分かります。更に充実させてほしいと思います。また、石巻市として考えていることや計画をしっかりとNPO法人石巻市体育協会へ伝えながら、推進してほしいと思います。 【木村美保子氏】 素晴らしい事業をたくさんしていますが予算が意外と少なく驚いています。是非スポーツ振興に関してはもっともっと力を入れて今後も取り組んでいただきたいと思います。							

課題・改善(ACTION)

<p>事業を進める上での課題</p>	<p>「いしのまき復興マラソン」の参加者は、令和元年度の開催については、昨年度から約200名の増加となったが、基本的には第1回大会と比べ減少傾向であり、関係団体と連携を密にし参加者増加に向けた取り組みを検討する必要がある。また、「いしのまき復興マラソン」の名称変更有無について、関係機関との協議が必要である。 各種スポーツ事業については、公園等への仮設住宅立地により、依然として運動を行える場所が限られており、環境整備が急務である。</p>					
<p>今後の対応方針</p>	<p>スポーツ振興事業の発展のためにも、委託先であるNPO法人石巻市体育協会の組織強化が急務であり、組織強化に向けた取組が必要となる。</p>					
<p>令和元年度の見込み</p>	<p>新規・継続拡充縮小)・休止・廃止・期間満了による終了</p>					
<p>事業費(決算額)</p>	<p>年 度</p>	<p>H29</p>	<p>H30</p>	<p>R元</p>	<p>R2</p>	<p>R3</p>
	<p>金額(千円)</p>	<p>4,214</p>	<p>5,214</p>			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	16	事業名	読書環境整備事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	4 豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進					
	基本施策	1 生涯学習の推進					
	施策の展開	学習環境の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	心ゆたかな誇れるまち					
	基本施策	市民が個性を活かして輝ける機会をつくる					
	施策の展開	市民の主体的な学習活動を支援する					
	事業名	読書環境整備事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	図書館	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
<p>図書館法第3条に基づき、必要な資料を収集し市民の利用に供する。公立図書館は「図書、記録その他必要な資料・情報を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するとともに、市民の教育と文化の発展に寄与する」ことを目的としている。これらを踏まえ、市民の要望に応えるため、魅力ある図書資料や情報の収集・提供に努め、図書館サービスを推進する。</p>							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数は、震災の影響からH23年度は167,048冊に激減、その後回復しH30年度は290,726冊となった。 ・東日本大震災に関する郷土資料を積極的に収集し、後世への「知の遺産」として保存、整備した。 ・仮設住宅では退去者が増え利用件数は減少したが、移動図書館車が巡回し被災者支援を図った。 ・H28年度から学校司書の配置が始まり、学校図書室との連携を強化できた。 ・利用者が参加し楽しめる企画を考案し、定期的にイベントを開催した。 							
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・各分野において多様かつバランスの取れた資料構成への見直しや、ビジネス書等、社会情勢の動向を考慮し最新の情報及び利用ニーズに留意し収集する必要がある。 ・書架レイアウト、駐車場の利用しやすさに配慮しなければならない。 ・市民へのPRを充実させるため、市報やホームページ以外の情報発信も創意工夫する必要がある。 ・移動図書館サービスは、仮設住宅団地の集約状況から巡回団地を含め検討の余地がある。 							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
図書、記録その他の資料を収集・整理・保存の実施			実施				→
生涯学習の場として資料・情報を提供			実施				→
児童書及び子ども読書活動推進に係る図書の充実			実施				→
学校支援事業による学校図書室との連携			実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	年間購入冊数	冊	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900
成果指標	年間貸出冊数	冊	317,000	317,000	317,000	317,000	317,000

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況		1 新刊書や児童書を中心に、図書資料を購入し、市民に提供した。 2 レファレンス等による関連図書資料の貸出 3 子ども読書活動事業の実施 4 子育て支援事業の実施 5 学校支援事業の実施							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	年間購入冊数						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	冊	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	
		実績	冊	6,761	6,738				
		達成率	%	98	97.7				
	成果指標	指標名	年間貸出冊数						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	冊	317,000	317,000	317,000	317,000	317,000	
		実績	冊	280,433	290,726				
		達成率	%	88.5	91.7				
【評価基準】 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		図書の年間購入冊数については、ほぼ計画通りとなっているが、年間の貸出冊数については、目標に達していない。震災前までの利用実績を勘案して目標値を設定したが、横ばい傾向になっている。このことから、さらなる読書推進が必要と考え評価をBとした。							
学識経験者からの意見		【有見正敏氏】 定期的なイベントも開催するという事で、今後も魅力ある内容を期待したいと思います。それから、購入冊数、貸出冊数とも目標に近づいており、評価できると思います。今後とも魅力ある図書資料や、情報の収集、提供に努められるとともに、書架レイアウト、駐車場など利用しやすさの面からの整備も早急に検討してほしいと思います。 【鍵 頼信氏】 素晴らしい事業ですので、今後も事業を推進し、市民が使いやすい、そして魅力ある図書館づくりを目指していただきたいと思います。 【木村美保子氏】 年間貸出冊数が成果指標になっていますが、図書館に行って学生が勉強をしたり、本を借りなくとも何か情報が得られるとか、そういった使い方もあるので利用者数という成果指標について再考していただきたいと思います。 また、盛岡駅に直結する図書館は、子ども専用フロアなど、楽しさに満ち、明るく非常にいい空間だと感じました。家で読まなくとも、本に触れられる場所があるというのは、そのまちの文化的な質の向上につながるのと同時に、最終的に学力向上にもつながっていくと思いますので、例えば、市役所1階や5階の利活用としてミニ図書室を設置するような、少しでも本に触れる機会を増やすことを検討いただきたいと思います。							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	当市においては、人口1人当たりの資料費が、H29年度ベースで県内平均199.79円に対し、85.65円となっている。さらに、北上、雄勝分館が令和2年度に復旧し、業務を開始することから、資料費の増額について、検討が必要になっている。					
今後の対応方針	図書館の利用状況、市の財政状況及び人口規模等を勘案し検討していきたい。					
令和元年度の見込み	新規・ <u>継続</u> (拡充・縮小)・休止・廃止・期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	12,000	12,000			